



～文化の風が吹くまち ちくしの～

文化薫道



◆其の七十一

徐福伝説と東南冠者

天山に「東南冠者」という少し変わった地名が残っています。この地名にはある伝説が関わっていると考えられます。

およそ2200年前、秦(当時の中国)の始皇帝が不老長寿の薬を求め、徐福という人をリーダーとして、農工業技術者と数千人の少年少女「童男少女(どうなんかんによ)」からなる大船団を東に派遣したという伝説です。この伝説は日本各地に伝わっており、その一つが天山の山中にある「船繫石(ふなつなぎいわ)」という巨石です。

この巨石は江戸時代の学者、貝原益軒が記した『筑前國続風土記』に「大岩の下十二間許に、うつほ船とて船に似たる石あり」と紹介されており、この巨石のことを人々は「船繫石」や「童男少女か岩」と呼んでいたそうです。巨石には古

くから神が宿るとも考えられており、有明海から宝満川を上ってき

た徐福と少年少女が不老長寿の薬を求めて訪れたと伝わっていたのでしょう。

この巨石の近くに「東南冠者」という地名があります。徐福伝説の「童男少女」の響きが時代の流れのなかで徐々に変化して伝わったのでしょうか。

市内に残る地名には、由来を辿ると面白いものに行きつくこともあります。「東南冠者」は、当時の人々が徐福伝説と山中の巨石を結び付けて誕生した地名と考えると、ロマンが感じられます。

聞文化財課



童男少女石



筑紫野市フェイスブック
<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター
<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント
<https://lin.ee/6X9wMoy>